

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「海岸防災林薬剤散布事業」（千葉県銚子市 君ヶ浜国有林）

（撮影者：千葉森林管理事務所 業務グループ）

- 小山地区民有林直轄治山事業について 治山課 . . . . 2
- 平成27年度関東森林管理局森林・技術等交流発表会を開催 技術普及課 . . . . 4
- 赤谷の森から「ホンドテンは森をどう見ている！」  
赤谷森林ふれあい推進センター . . . . 5
- 森づくり最前線  
会津森林管理署 南会津支署 湯ノ花森林事務所 森林官 井上賢 . . . . 6

# 小山地区民有林直轄治山事業について

## 計画保全部 治山課

地域と、富士霊園・県道等を保全対象とし、溪間工による溪床の安定と山腹の荒廃の復旧に向けた山腹工を行う北郷地域の2地域で事業を行うこととしています。(図①)

静岡県駿東郡小山町北部の山地は、富士山の火山噴出物(スコリア)が厚く堆積した固結度の低い土壌に覆われているため浸食されやすい性質です。

このため、平成22年9月には台風9号に伴う豪雨(小山町で日最大24時間降水量490ミリ、最大1時間降水量118ミリを記録)、平成24年・25年の集中豪雨等により崩壊地が著しく拡大し、流出する土砂によ

る大きな被害が発生しました。

(写真①)

現在も大量の不安定な土砂が溪流内に堆積している状況であり、降雨の度に浸食が急速に拡大しやすく、土壌養分も少ないため森林の再生が容易でないスコリア土壌であることから、崩壊地の拡大及び大量の不安定土砂の流出が続き、被害を与え続けています。(写真②)

このため、当該地域の流域保全に對して静岡県等からの要望が急速に高まり、国土保全部上重要で、スコリア土壌を踏まえた高度な技術を要し、事業規模も大きいことから、国直轄による民有林直轄治山事業として実施することになりました。

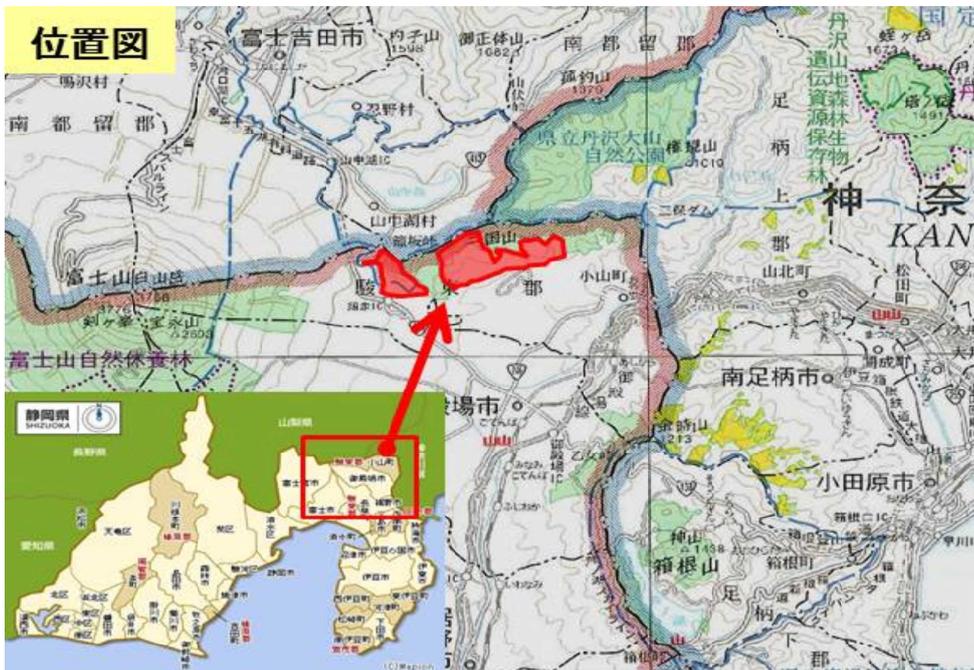


写真①拡大する崩壊地



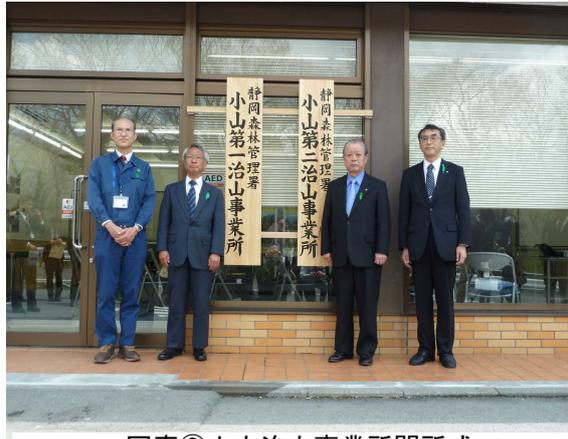
写真②流出土砂に埋もれた家屋

この小山地区民有林直轄治山事業は平成27年度から10年間、予算70億円という全体計画で、国道138号線・須走集落等を保全の対象とし、上流の山腹崩壊対策を主とする須走



図①

事業の実行は、静岡森林管理署の出先として小山第一・第二治山事業所を小山町内（須走ICから5分程度138号線沿い）に設置して実行にあたっていきます。（写真③）



写真③小山治山事業所開所式

事業実行初年度である平成27年度は、須走地域1箇所（立山5・山腹工）北郷地域2箇所（角取山1・溪間工、角取山7・溪間工・山腹工）の計3箇所について、工事費約2億円で事業を実施しました。（写真④写真⑤）



写真⑤施工後 北郷地域（角取山1）



写真④施工前 北郷地域（角取山1）



写真⑦北郷地域（角取山1）



写真⑥須走地域（立山5）

平成28年度については須走地域で2箇所（継続1、新規1）、北郷地域で4箇所（継続2、新規2）の合計6箇所、工事費約4・2億円を計画しています。（写真⑥写真⑦）

### 今月の表紙

### 海岸防災林薬剤散布事業

千葉県銚子市の君ヶ浜は、夏には大勢の海水浴客で賑わいます。

君ヶ浜国有林は、保健保安林、水郷筑波国定公園に指定され、林内に整備された遊歩道は市民や観光客の憩いの場として利用されています。また、犬吠埼一带の海岸防災林であり、防風及び潮害防備保安林に指定され、背後に広がる住宅や農地を強風や潮害から守る役割を担っています。

千葉森林管理事務所では、この貴重な海岸防災林のクロマツを松くい虫から守るため、薬剤散布を実施し環境保全に取り組んでいます。



# 平成27年度関東森林管理局森林・技術等交流発表会 を開催

## 森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、2月18日・19日の両日、関東森林管理局大会議室において、第60回目となる森林・林業技術等交流発表会を開催しました。

本発表会は、各地域の試行的な取組によって得られた新たな技術や研究成果等を、多くの関係者が共有することにより、国有林野の管理経営や民有林における技術の普及・定着に資するとともに、地域林業の再生に寄与することを目的として、毎年開催しているものです。

員のみならず、県や研究機関の職員、森林ボランティア団体、林業を学ぶ大学生・高校生等から、25課題の発表がありました。



挨拶する漆原局長

審査員には国立研究開発法人森林総合研究所の吉丸研究専門員（審査員長）、宇都宮大学の谷本名誉教授、栃木県林業振興協会の福田女性野職顧問をお迎えし、今年も国有林野職



質問する吉丸審査員長

また、赤谷森林ふれあい推進センターが取り組んでいる赤谷プロジェクトについて、藤澤所長から「地域とつながる国有林く赤谷プロジェクトの取組から考える」と題して特別発表が行われました。



藤澤所長の特別発表

2日目の午後には、森林総合研究所育成林施業担当チーム長の宇都木玄氏による「低コスト再造林にむけて」と題した特別講演が行われ、活発な質問に来場者のコンテナ苗等に関する関心の高さが伺えました。



うづぎ はじめ  
特別講演（宇都木玄氏）

特別講演後、吉丸審査員長から講評があり、日常の業務や学業等で多忙の傍ら、諸課題に対して、情熱を持って、積極的に取り組まれ、得られた成果をまとめ上げたすばらしい発表が多かったと高い評価をいただきました。

審査の結果、最優秀賞1課題、優秀賞8課題が選ばれましたが、特筆されるのは、最優秀賞に、群馬県立勢多農林高等学校植物バイオ研究部の皆さん、優秀賞に、静岡県立農林大学校杉山彩音さん、群馬県立農林大学校鉾田智洋さん、と学生の皆さんの発表が選ばれたことです。

参加者は、2日間でのべ472人と、盛会のうちに終了することができました。



会場

今回発表いただいた皆様及び関係者の皆様に御礼申しあげるとともに、今後も、本発表会を通じ、林業に携わる方々、また、一般の方にも森林・林業への関心が深まることを期待し、新たな技術の開発や研究成果の普及に努めてまいります。



勢多農林高等学校の発表



第123号で赤谷センターの取り組みを紹介しました「ホンドテンモニタリングを活用した環境教育教材の開発」について、このたび「森へのアプローチ」**「ホンドテンは森をどう見ている？」が完成しました。**  
みなさんは、**ホンドテンを知っていますか？**

ホンドテンは、長くほっそりとした体つきと短い手脚が特徴です。海



ホンドテン (冬毛)

岸近くから奥山まで日本各地に広く生息している身近な動物で、動物や植物（主に果実）などを食べます。ネズミ類はもちろん、サワガニなども大好物で、バッタ類や甲虫類も好物です。樹上のリスや鳥も襲います。

植物では、イチゴ類やクワ、カキ、ヤマブドウ、サルナシなどを食べ、日本に生息する哺乳類の中でもトツプクラスの幅広い雑食性を誇ります。ホンドテンは、ネズミ等の小動物を食べ、その数を調整し、植物の実を食べながら、糞として種子を散布するといった森林生態系の中で重要な役割を果たしています。

赤谷プロジェクトでは、赤谷プロジェクト・サポーター（ボランティア）が中心となってホンドテンの糞を採取し、赤谷プロジェクトが分析・評価するホンドテン・モニタリング調査（通称・テンモニ）を2005年から行ってきました。採取したサンプリングした数は2015年までの10年間で5199個にも及びます。

テンモニは、ホンドテンの生活を観察することによって森を理解することを目的としています。

先行研究や最近の知見から、ホンドテンは幅広く動植物を採餌対象としていることが知られており、

これら採餌物を解析すれば生息する森林環境の理解につながる可能性が示唆されています。

**それにしても、フンから森が見えるなんて！おもしろいと思いませんか？**

今回、この成果を環境教育活動にいかしたいと考え、赤谷センターとテンモニに携わっている赤谷プロジェクト・サポーターのみなさん（ホンドテン・モニタリングチーム、通称テンモニ隊）と協働で「実践環境マニユアル【森へのアプローチ】ホンドテンは森をどう見ている？」と、

ホンドテンやモニタリングの方法をわかりやすくまとめた「始めよう！ホンドテン・モニタリングどうしてホンドテンなの？」を作成しました。

【森へのアプローチ】ホンドテンは森をどう見ている？」は赤谷森林ふれあい推進センターのホームページからダウンロードできます。読んでいただいた後にやってみたら、みなさんはもうテンモニ隊の一員です。

**一緒にテンモニしてみませんか？**

実践環境教育マニユアル【森へのアプローチ】  
「ホンドテンは森をどう見ている？」



林野庁 関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター  
赤谷プロジェクトサポーター テンモニ隊(ホンドテン・モニタリングチーム)

**ホンドテンは森をどう見ている！**

# 森づくり最前線

会津森林管理署南会津支署 湯ノ花森林事務所 森林官 井上 賢



世界的にも珍しい形状の田代山湿原

当湯ノ花森林事務所は、福島県南西部の栃木県境に位置する南会津町 舘岩地区(旧舘岩村)に所在し、田代山・帝釈山を源頭した西根川から舘岩川合流域を囲んだ山々の約1万3千鈔を管理しています。この地域は四方を標高1500m級の山並みで囲まれた山村環境であり、気候は夏は朝夕しのぎやすく、冬は厳しい日本海型の豪雪地帯に属しています。越後山系から連なる帝釈山(標高2059.6m)を最高峰に、尾瀬国立公園に指定されている田代山や長卸山・七ヶ岳などの山々に囲まれた当地には、毎年多くの登山客が訪れます。特に、田代山には世界的にも希少とされる台形状の湿

原が存在し、約400種にも及ぶ貴重な高山植物がみられる隠れた名所で、四季折々の風景を観ながら登山を楽しむことができます。

また、舘岩川水系の溪流(舘岩川・湯ノ岐川・鱒沢川・西根川)では、4月上旬から10月中旬にかけて溪流釣りが、また冬季では、厳寒地特有の良質なパウダースノー(水分の少ない粉状の雪)を背景に、スキーをはじめとしたウィンタースポーツが盛んに行われており、年間を通じて地元住民や観光客に親しまれています。

それから、曲家(まがりや)と呼ばれる草ぶき屋根の民家が村のかしこに残り、舘岩にある前沢集落(23戸の内、現在10戸の曲家が建ち並ぶ。)では、花しょうぶ園や螢の里などとともに公園として日本の原風景を觀賞することができます。周囲の山々とイワナが棲む川、そして風情漂う温泉(湯ノ花温泉・木賊温泉)があるという「隠れ里」的な環境が、田舎好きな観光客を現在も魅了し続けています。

当事務所管内国有林について概観すると、そのほとんどが「奥会津森林生態系保護地域」および「緑の回廊」に指定されており、ブナやミズナラなどを中心とした天然林が広がっています。そのため人工林はごくこ

く限られています。今年には保育間伐活用型による素材生産も予定されています。その他では、「レクリエーションの森野外スポーツ地域」として、国有林野の一面がスキー場として提供されているほか、分収造林地の一部では、芝浦工業大学学校分収造林『芝浦創造の森』やさいたま自然の家の学校分収造林『体験の森』として学生の林業体験の場として活用されており、林業体験では南会津支署からも講師として参加しています。



柏中学校による林業体験

歴史的少雪であったことで今年4月中旬から現場巡視が可能となっておりますが、その反面、山火事が例年以上に発生する恐れもあり気が抜けません。

また、当事務所管内においても、熊や鹿による剥皮被害が目立つようになってきています。少雪により我々人間に限らず鳥獣の活動も例年以上に早くなる可能性もあり、被害状況の把握と剥皮被害防止対策を検討の上、地域関係機関との連携をいっしょに図っていききたいと思います。

最後に、昨年9月の台風による豪雨は、国有林、民有林を問わず南会津支署管内全域に大きな爪痕を残し、当事務所管内にも現在も通行ができない箇所が多数存在している状況です。今後各種事業を実行していく中で様々な諸課題が生じるかと思いますが、支署職員の先輩方、地元の方々のご協力をいただきながら、地域の関係機関等と連携し、舘岩の魅力を少しでも引き出せるよう微力ながら貢献していききたいと思います。

業務について述べると、当事務所は上述のとおり豪雪地のため、例年5月上旬～11月上旬までの限られた期間で段取りよく現場業務を遂行する必要があります。この点、昨冬が

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL(027) 210-1158  
FAX(027) 230-1393